

2 外国語科目について

1 外国語科目の履修

言語の運用能力は、将来どのような分野に進もうと、身に付けた専門知識や専門技術を十分に活かして成果を上げるための基本となる重要な能力の一つである。言語は人類の文化の基礎であるから、将来社会人として人類の歴史と文化を継承して社会で活躍するために言語の運用能力を鍛えておくことが極めて重要である。しかも、現代のように国際化の進んだ社会では、国語（自国語）と外国語の両方を操る能力を養っておくのが望ましい。文化の根底を成す言語を出るだけ広く深く学んで人類の文化の一般性と民族の文化の特殊性について理解を深めておくことは、将来の活動の源泉となる教養の奥行を深めることに繋がるからである。

理学部では、言語のこのような重要性を考慮し、共通教養科目から専攻科目を通してむしろ科目区分に捕われず、1年次から3年次に至る語学とその関連科目を「語学科目」として位置づけて、様々な語学科目を含めて言語運用能力の養成と向上を図る教育課程を提供している。国際語として重要性の高い英語を第一外国語として必修科目に置いているが、英語以外の外国語も第二外国語として履修することが出来るような仕組みになっている。

2 外国語科目一覧

理学部の語学科目については、次表のとおりである。学科によって履修要件に違いがあるので注意すること。

理学部外国語科目

卒業要件単位	科目	単位	科目区分	標準履修年次	履修要件
8単位 (選択必修) 理学部共通	上級英語	2	共通(外国語)	1前	
	上級英語	2	共通(外国語)	1後	
	中級英語	2	共通(外国語)	1前	
	中級英語	2	共通(外国語)	1後	
	初級英語	2	共通(外国語)	1前	
	初級英語	2	共通(外国語)	1後	
	基礎英語	2	共通(外国語)	1前	
	基礎英語	2	共通(外国語)	1後	
	上級英語	2	共通(外国語)	2前	
	上級英語	2	共通(外国語)	2後	
	中級英語	2	共通(外国語)	2前	
	中級英語	2	共通(外国語)	2後	
	初級英語	2	共通(外国語)	2前	
	初級英語	2	共通(外国語)	2後	
	基礎英語	2	共通(外国語)	2前	
	基礎英語	2	共通(外国語)	2後	
	科学技術英語	2	専攻C群	2前	
	科学技術英語	2	専攻C群	2後	
選択科目	ドイツ語	2	共通(外国語)	1前	
	ドイツ語	2	共通(外国語)	1後	
	ドイツ語	2	共通(外国語)	2前	
	ドイツ語	2	共通(外国語)	2後	
	フランス語	2	共通(外国語)	1前	
	フランス語	2	共通(外国語)	1後	
	フランス語	2	共通(外国語)	2前	
	フランス語	2	共通(外国語)	2後	
	スペイン語	2	共通(外国語)	1前	
	スペイン語	2	共通(外国語)	1後	
	スペイン語	2	共通(外国語)	2前	
	スペイン語	2	共通(外国語)	2後	
	中国語	2	共通(外国語)	1前	

	中国語	2	共通(外国語)	1 後	
	中国語	2	共通(外国語)	2 前	
	中国語	2	共通(外国語)	2 後	
	日本語	2	共通(外国語)	1 前	#
	日本語	2	共通(外国語)	1 後	#
	日本語	2	共通(外国語)	2 前	#
	日本語	2	共通(外国語)	2 後	#
	日本語上級	2	共通(外国語)	2 前	#
	日本語上級	2	共通(外国語)	2 後	#
	<技能資格>	2	認定科目		

選択必修の8単位は、上級英語 ・ ・ ・ ，中級英語 ・ ・ ・ ，初級英語 ・ ・ ・ ，基礎英語 ・ ・ ・ のうち、 ・ ・ ・ を組み合わせた8単位。

外国人留学生および外国高等学校在学経験者を対象とする。日本語は、ひとクラスの開講である。日本語（月・火）と（水・金）は前期に開講する。日本語（月・火）と（水・金）は後期に開講する。
「各種検定試験合格者の単位認定に関する取扱規程」によって認定された単位。

全学生が卒業要件単位として英語を8単位履修しなければならない。各学期の前に実施されるプレイスメントテストの成績により所属するクラスが指定される。従って前期は中級英語，後期は上級英語といった様に、前後期で履修科目のレベルが変わる場合がある。レベルは異なっても、 ・ ・ ・ の組み合わせで8単位修得すれば良い。成績証明書には各レベル名が明記されるので、学生諸君には、より上位レベルの科目履修と単位修得の努力が望まれる。

英語以外の外国語の履修方法

1. 英語以外の外国語の履修方法

共通教養系科目のなかに、英語以外の外国語として、ドイツ語・フランス語・スペイン語および中国語が設けられている。

現在の文化的、政治的な国際状況のもとで、英語はもとより、それ以外の外国語を身につける必要がたかまっていることは、いまさらいうまでもない。諸君は今後の活動のさまざまな場で、そのことを痛感させられる機会が、ますますふえることだろう。

(1) ドイツ語・フランス語・スペイン語および中国語の履修方法

ドイツ語 ・ フランス語 ・ スペイン語 および中国語 (1 年次前期配当 選択 1 科目 2 単位)

ドイツ語 ・ フランス語 ・ スペイン語 および中国語 (1 年次後期配当 選択 1 科目 2 単位)

それぞれの外国語を基礎から学ぶ科目で、前・後期それぞれ週 2 回の講義 ・ を履修し、単位は計 4 単位である。語学にかぎらず、あらゆる学問、スポーツ、芸術、その他一般において、基礎をしっかりと身につけなければ、いずれは行き詰まる。そのことは肝に銘じてもらいたい。

これらの講義では、それぞれの言語の文法を学び、骨組みを知り、文章講読によってその肉付けをする。

なお、四ヶ国語とも、 ・ について、複数クラス設けられており、授業時間割表のなかで組み合わせが指定されている。しかし、基本的には組み合わせ自由となっているので、時間割と異なる組み合わせの履修を希望する場合は、教務課に相談すること。

ドイツ語 ・ フランス語 ・ スペイン語 および中国語 (2 年次前期配当 選択 1 科目 2 単位)

ドイツ語 ・ フランス語 ・ スペイン語 および中国語 (2 年次後期配当 選択 1 科目 2 単位)

1 年次で当該外国語の ・ を履修済みで、同一外国語にさらに精通するため継続して学ぼうとする諸君のために、 ・ (それぞれ週 2 回、計 4 単位) が設けられている。また、何らかの理由で履修できなかった場合には、後期開講の ・ および前期開講の ・ もあるので、それらの履修も勧める。

各外国語の ・ で修得した知識と能力を大いに活用し発展させながら運用能力をいっそう高める学修を行うために設けられた科目である。

当該外国語 ・ を履修し計 4 単位を修得した者でなければ、その ・ を履修することはできない。

なお、当該外国語 ・ の両方を履修することが望ましいが、どちらか一方だけでもよい。その場合、 ・ の講義要項を熟読して、自分の関心と目的にそって選択履修をすること。

上級ドイツ語・上級フランス語・上級スペイン語および上級中国語

さらに継続して語学能力を高めたい場合、下記に述べる経営学部開設されている上級 ・ ・ ・ の履修を薦める。各言語いずれも 6 単位以上修得しておれば履修可能である。

特修外国語(ドイツ語) 特修外国語(フランス語) 特修外国語(スペイン語) および特修外国語(中国語)

上記の上級同様、語学上達の原則を学習の継続と考え、なおかつ派遣交換留学を希望し、その準備として語学検定の資格を必要とする場合、同じく経営学部開設されている特修外国語 ・ の履修を薦める。各言語いずれも 8 単位以上修得しておれば履修可能である。

(2) ドイツ語・フランス語・スペイン語および中国語の既習者の履修方法

ドイツ語・フランス語・スペイン語および中国語のいずれかについて、高等学校その他で既習の場合は、当該外国語の担当者がその学生の能力を判定したうえで、その能力にみあった当該外国語の履修方法を指示する。

そのような学生は、4 月のガイダンスで開催される語学相談会の折に、当該外国語の担当者に申し出ること。

経営学部の履修科目のなかに設けられている英語以外の外国語科目の履修方法

経営学部には、ドイツ語・フランス語・スペイン語および中国語のほかに、ロシア語、朝鮮語のそれぞれの ・ ・ ・ の科目と、これら計 6 外国語の上級の科目が設けられている。

ロシア語、韓国語含む計 6 外国語を履修しようと思う学生は、これらの科目担当者に申し出て、履修についての指示を受けること。